特定家畜伝染病防疫指針留意事項の変更（案）について

＜豚熱、アフリカ豚熱＞

○ 疑似患畜の除外について

発生農場と飼養管理者が共通している農場において、シャワーインと同程度の措置を講じることで、疑似患畜から除外できるよう記載。ただし、疑似患畜から除外した場合、当該豚等を移動制限区域内の農場と同様の措置を講ずる。

【参考】

豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づく発生予防及びまん延防止措置の実施に当たっての留意事項

第 49 患畜及び疑似患畜が飼養されている農場の飼養管理者が他の農場の飼養管理を行っている場合における協議

家畜防疫員が次の措置が全て講じられていることを確認した場合は、都道府県は、防疫指針第5の2の(2)の③の豚等について、動物衛生課と協議の上、疑似患畜から除外できる。

1～2 (略)

3 その他発生予防・まん延防止対策の実施

飼養管理者が管理する全ての農場において、病性判定日から遡って10日目から現在までの間に次の措置がとられていたことが、発生時の家畜防疫員の立入検査で確認できる場合

(1) 畜舎又は衛生管理区域内への入場時にシャワーイン（農場間を移動する際の自宅等での入浴を含む。）が行われており、かつ、眼鏡等の身につけているものを消毒する措置がとられていること。なお、以下の要件を全て満たす場合には、シャワーインと同程度の措置がとられているとみなすことができる。

① 衛生管理区域入場の際、専用衣服及び靴の他、マスク、メディカルキャップを適切に着用していること。

② 衛生管理区域退場の際、①で着用した専用衣服等を脱ぎ、洗顔、うがい、手指消毒を実施するとともに、全身の噴霧消毒を実施していること。

③ その他飼養衛生管理基準が厳格に遵守されていること。

(2) 飼養管理等に関連する器材及び車両が専用で、定期的に洗浄・消毒されており、作業動線が他の農場と交わらないこと。

(3) 敷地内に食肉処理施設が設置されている場合、車両消毒装置が整備され、敷地内へ入退場する車両の消毒が徹底されていること。

※ アフリカ豚熱は留意事項 23